

913.5
二
32(上)

三十二編上



紫田屋梓第卅
 僂舍鶴画貞三
 氏源彦作國編
 柳亭種歌川上



僂紫田舎源氏第三十二編

羽二重六指の最上あれども兩衣ふあきらんあゝ兜羅綿小ぶまが
 縮緬の前垂もむを扱ふふあきらんあゝ本綿程用はるまじ野良
 柳子の武家の兼鷹より今小廢らむ赤裳衣ひきと袂をうられ
 万葉時代も長襦袢ハ練るし事必せりまは色も地りひも
 ありあれはふ及事ありとい知りるる足利徳で五の衣を仕
 かやう不兼下もさうくして十二重の十二年續きそ女巻小
 至り五節の舞の衣裳ふこまより大原糸糸の田舎模模極又雪
 物音の巻の男踏袴と後河のたせ玉葛の筑紫糸練をあしんた
 見これをも原本雅言の借物あれは横堅と採糸をあらわ
 書房の是をさへすまふせんとい急ぐもさう

天保十年庚子孟春

柳亭種彦誌

あまのの
大原野の

まつ
祭

仁壽元年

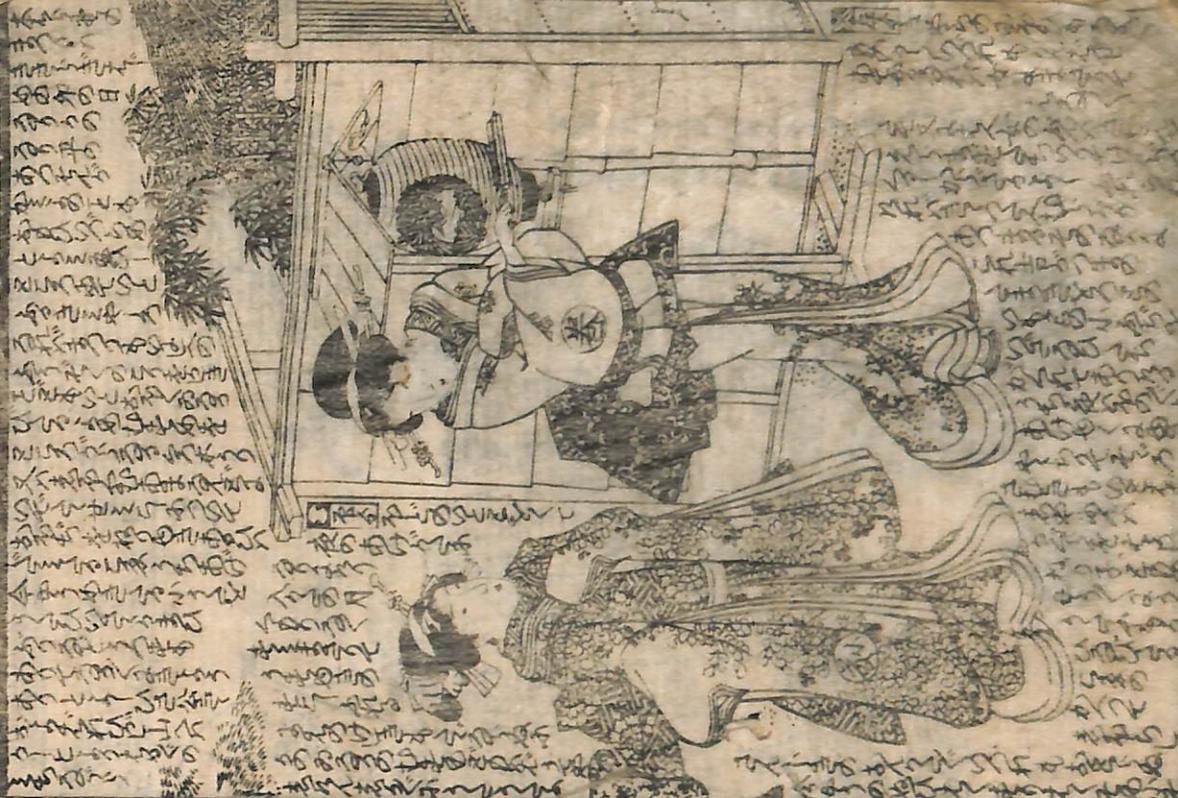
辛未三月一日

乙卯の日

あめ



▲このあとあまのれ最ふのき神事
あまのれ
藤氏の后宮へくるを
行啓あじとを







國貞画種彦作



東邦系本園家通共舞一

俳諧 今人附合集 全四冊

新関板

俳諧 今人藪句集 全二冊

新関板

俳諧 芳艸集 全二冊

俳諧 今四歌仙 全一冊

田舎源氏文集 花かたひ 上仕立
 万葉入ふりや底き新三巻の早りろ宛
 ちあま入ふりあたるらん 序ひあきの
 床子極方かるい底作りとあ皮ひき
 ちんひきふたねうひあかり花

市子道楽入
 小繪
 昔火種
 茶室のゆるい
 浦島年全冊

江戸御曆開板所

鶴屋喜右衛門



十二編下



913.5
=
32(F)

其
高
下

其
高
下